

D 75 ミシン縫製時の条件が縫目特性に及ぼす影響 - 薄地平織物の場合 -
文化女子大家政 ○武田育子 成瀬信子

目的 62年度本学会でミシン縫製時の条件の中，ブロード40番を試験布とした時の望ましい条件は、縫糸によって異なるが下糸張力最小12g以上であることが示された。そこで、今回は薄手の織物3種について、下糸張力を2段階に変え、針の種類を変えた時の縫目性状を調べ、針の影響を見出した。

方法 試験布は絹，キュブラ，ポリエステル薄手平織物3種，縫糸は絹ミシン糸50番ポリエステルフィラメント糸60番の2種で、針はS社が開発したMR1，デルタUの太さの違う2種（8番，10番）と従来一般に使われている針（9番）の4種とした。工業用ミシンで、これらの条件を組合せて試験布を縫製した。針目数18目/3cm，520~530回/min程度に縫製速度を一定にした。各種の縫目性状を測定し、一方、視覚による官能検査を一对比較法（順序効果のない場合）で行ない、その官能評価と、測定値との対応から、薄地織物に対する縫製条件を針の種類を中心として検討した。

結果 これらすべての条件より、3種の試験布の中、常に羽二重（絹100%）の縫つれは小さい。また、測定値よりも、官能検査の結果の評価が相対的に大きく、細目で、針カットがまろやかで、針に一定のくねりを与えているMR1が、縫つれが小さく、針目直線性もよく、針穴の目立ちも小さく、縫目がきれいである傾向が示された。また、この範囲の同一針内では、細い針の方が、太い針を用いるより望ましい結果を与えている。